

平成25年度 教育事業
はじまる！ボランティア体験講座

ボランティア研修や情報交流を通して、ボランティアについて深く考える機会ができました。また、実際にボランティア活動を体験することで、自分自身のボランティア観を見つめ直す事ができました。

1 事業実施までの経緯

近年、青少年にボランティア精神を普及し、生涯を通じて様々な場面でボランティアとして活躍できる人材を育成する重要性が指摘されるようになってきた。そこで、普段からボランティア活動に取り組んでいる者やこれからボランティア活動を希望する者へ向けたボランティアの活動機会や情報交流として活用する場を設定した。本事業では、今年度で小学校が廃校・統合予定の小学生を対象に協力をお願いし、小学生同士の交流を図ることを目的に、ボランティア自身が企画されたイベントを事前に学び、子ども達に伝え、実践し、体験してもらうように計画した。

2 ねらい

ボランティア活動や自然体験活動に興味関心のある青年に活動機会や情報交流として活用する場を提供することで、自分自身のボランティア観を見つめ直し、今後のボランティア活動や自然体験活動に向けて活動を推進し、活動機会の拡充を図るための養成を行う。

3 主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家

4 後援 愛媛県教育委員会・大洲市教育委員会

5 期日 平成26年3月8日（土）～9日（日）【1泊2日】

6 場所 国立大洲青少年交流の家

7 参加人数 30名

8 講師 玉井 義幸 氏（国立大洲青少年交流の家研修指導員）
渡辺 猛 氏（国立大洲青少年交流の家研修指導員）
国立大洲青少年交流の家 企画指導専門職・事業推進係

9 日程・内容

(1) 日程

| | | | | | | | | | | |
|-------|----------------------|-------|--------------------|---------------------|---------------------------------------|---------------------|----------|-----------------------|----------|------------|
| | 12:30 | 13:00 | 13:30 | 14:30 | 16:00 | 16:30 | 18:30 | 19:30 | 21:00 | 22:00 |
| 8日(土) | 受付 | 開講式 | 活動① アイス ブレイク | 活動② 鴫ヶ森 プログラム | 休憩 | 活動③ 段ボール ピザ実習 | 実食 休憩 | 活動④ プログラムを 考えよう | 入浴 自由 | 就寝準備 就寝 |
| | 6:30 | 9:00 | 10:00 | 10:30 | 14:30 | 15:00 | 16:00 | 16:30 | | |
| 9日(日) | 起床/つどい 朝食 受入準備 | | 活動⑤ 受入準備 | 受付 開会式 | 活動⑥ 鴫ヶ森プログラム(60分) 段ボールピザ作り(90分) | | 閉会式 | まとめ | 閉講式 | 解散 |
| | ※小学生日帰り体験 | | | | | | | | | |

(2) 活動内容

【概要】

本事業は、参加者が事前にボランティア内容を学び考えた上で、実際に子ども達へ学んだ内容を実践する流れで2日間のプログラムを実施した。

1日目は、ボランティア参加者が学ぶプログラムとして、最初にアイスブレイクを実施した。参加者同士の緊張をほぐすことと2日目の小学生を受け入れる際に全体のレクリエーションゲームを実践できるように簡単なものから全員が楽しめる内容を体験した。その後、当交流の家の施設内にある鶺鴒森のフィールドを使って課題にチャレンジしながら鶺鴒森探索を行った。実際に小学生が楽しめるような場所や安全に配慮するような場所などを意識して過ごしていった。探索が終わった後は、翌日のメインプログラムとなるダンボールオープンの作成とピザ作りを行った。ダンボールオープンの中でピザができる過程を確認しながら熱心にピザ作りに取り組んでいた。夜には、翌日の役割分担決めやプログラムの確認を行い、参加者全員が小学生に楽しく過ごしてもらえるように気持ちを高めていった。



2日目は、実際に小学生と一緒に活動を行っていく上で、安全面や注意事項などを確認してから小学生を迎えた。1日目に学んだアイスブレイクゲームからヒントを得て全体のレクリエーションを実施し、小学生と和やかな雰囲気でも過ごすことができた。また、鶺鴒森プログラムも事前に危険な場所を確認しておいたことで、スムーズに実施できた。ダンボールオープンでのピザづくり体験も1日目に上手くいかなかった点を改善して取り組んだことで、それぞれが満足の行く結果になっていた。最後のまとめの時間では、初めてのボランティア体験で充実した様子の意見が多く挙げられており、それぞれがボランティア活動に対して手応えを感じていたようであった。



(3) 参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

*満足：70.4% *やや満足：29.6% *やや不満：0.0% *不満：0.0%

- 自分たちで決めるウェイトが大きく、不安を感じることもあったが、それをやりとげることによって大きな達成感を得ることができた。自分が教える側に立つのはすごく不安だが、機会があれば友人等と共に重い一歩を駆け出したい。
- 今までボランティアをやってきてはいたのですが、今回のこのボランティア体験が一番いいものになりました。人と人が関わっていくのって大切だなと思いました。

(4) 成果・課題

本事業は、ボランティア活動や自然体験活動に興味関心のある高校生以上の青少年が集まり、自分自身のボランティア観を見つめ直すための場として設けた。高校生から社会人にかけての異年齢集団が集まったことと、ボランティア活動経験者と初心者が多く集まった事で、グループ活動中はお互いにボランティア活動について話す場面が多く、自然発生的に参加者自身がボランティアについての情報交流をする機会ができていた。また、今回の事業内容の中で1日目に参加者自身が様々なプログラムを実際に体験しながら学び、2日目に小学生を招いて自分たちが学んだことを実践していく内容は、自らが体験したことを子ども達に伝えることで、より参加者の実践経験を得ることができていた。本事業に参加した者のほとんどがはじめてのボランティア体験だったこともあり、このような実践経験を体験できる内容を今後も取り入れながらボランティア活動の推進を図っていきたい。